

7月 今年の野川は

7月16日、会員から「品川通りと交差する橋から下流の調和小あたりまで野川が干上がっている」とメール情報が入ってから、そのことが話題になりました。

◆左の写真は昨日(15日)夕方の野川です。品川通りの橋から下流の調和小学校あたりまで干上がっています。それより下流はだんだん水が見えるようになり、松原通りにかかる野川大橋付近では、大きな鯉が泳いでいました。

毎日散歩に来ているという年配男性の解説では、写真の辺りが干上がることは初めてではなく、この付近の川床が砂利であることも関係している(わずかな水が砂利層の下を流れている)のだそうです。つまりこの夏の雨不足が主な原因のようです。

そうは言っても、野川のような都市河川では、流域の緑の減少、保水力の低下が流量を不安定にします。

数年前から、下流の世田谷区内



の野川で川床を掘り下げる改修工事が行われている現場で、普段は見えない国分寺崖線側の川岸下部から何ヶ所も水が湧いているのを目撃して、中流域でも樹林が川を養っているのだと実感したものです。流域で水を涵養する機能が低下していることが、今回の事態と無関係ではないと思います。

国分寺崖線の湧水として若葉町近辺では唯一のポイントである武者小路実篤記念公園内に行ってみました。湧水量が少なくなっているが止まってはいませんでした。(この湧水は、溜池と人間川を経て野川につながっています。) 実篤記念館の職員にうかがったところ「最近、急に湧水が減り池の水位も低下しているけれど、6月の雨量が少なかったことがその原因で、まとまった雨量があれば直ぐに回復するだろう。」と言っておられました。(T.O.)

◆野川は元の河川床を散々いじって砂利層まで掘り下げてしま

まったので、水が抜けてしまうのです。その後、お金をかけて砂利層がむき出しになった場所に粘土質の土を貼り付ける工事を、数か所で実施したのですが(調布の

部分も含む)、豪雨による急激な増水が起きると粘性土が流れてしまい、うまくいっていないのが現実の姿です。

また今回の生き物レスキューしている市民の方たちの活動には頭がさがりますが、一方で、野川にふさわしくないとされている鯉を、一生懸命救おうとしている写真を見たりすると、複雑な気持ちになります。(M.E.)



佐須街道と交差する辺りは流れが淀んで藻が浮いている

うになったそうです。ひとつ気になるのは、滝坂から、甲州街道の下を共同溝を掘っていることです。こういうことも野川の干上がりに関係しているのではないのでしょうか。(M.S.)

◆私も野川流域連絡会の委員として今回の件は東京都北多摩南部建設事務所とも色々お話をしたところ4〜6月の雨量が原因で、地下水が枯れているとの事です。雨量を調べましたが、やはり例年の30%程度しかなく、降っても大量に降るか、地面を湿らせるくらいかの極端な雨ばかりでした。

今年の調和小の総合の授業では雨どいを使い、雨水浸透ます・雑木林の保水効果について説明し、生き物レスキューを行いました。

鯉の移動は、環境衛生も兼ねてです。橋の架け替え工事で見落としていた甲州街道車橋、馬橋の間は20本程度の70センチ級のコイが死滅しており、数百メートル先まで異臭が漂い魚体には多数のハエがたかり、ウジがあふれ出ています。(T-I)

◆現在の野川の位置は必ずしも従来からの場所ではなく洪水防止(治水)の為に昭和40年代に流路の変更と川底の掘削を行い粘性土を張り、砂利層への浸透防止をしています。今回の渇水で、上流は渇水しているのに下流域である谷戸橋以降は流れがあり、国分寺崖線からの湧水が地下水として野川に流れ込んでいるのが分かります。今回の渇水は13年ぶりで、特に小金橋上流近辺が激しい様です。流域の区市では、治水及び地下水涵養の為に雨水浸透を推進しており、また今回の渇水から治水のみならず生物多様性の観点からも渇水対策を都へ求める声が野川流域の中で出て来るものと思われます。澄んだ流れで調布市民のいこいの川を守るにはこれからも様々な工夫が必要です。(W.O.)

◆神代団地が出来てから、(約50年前)地下水の水位が、下がったそうです。このへんの畑は、少々の日照りでは、土が乾くことは無かったのが、団地が出来てからは、乾くよ

花の履歴書 ④5

戸部英貞 (絵・文)

エゾミソハギ (蝦夷禊萩) ミソハギ科



Lithrum Salicaria

信濃では盆の季節を迎えると、仏前を飾る花を野山に採りに出かける習慣があり、この頃の高原はオミナエシやキキョウ、マツムシソウなどの花が咲き乱れ、楽しい季節の行事だが、今もこの習慣は続いているのだろうか。

たくさんさんの野の花から好みの花を選んで摘んでくるが、必ず加えられるのがミソハギの花だ。名が示すように盃蘭盆会の禊には欠くことのできない花の一つで、庭や畑の隅に植えられていることが多い。

盆棚(精霊棚)は地域により様々だが、マコモの莫座(ござ)を敷いた祭壇の四隅に葉の付いた青竹を立て、マコモのしめ縄を張り、そこにホウズキ、インゲン、昆布、素麺などを釣るし、霊供膳を供えるのが一般的だ。

祭壇にはハスの葉の上にナスやキュウリをさいの目に刻んで載せた「水の子」を置き、閼伽器(あかき)に入れた冷たい水に精霊花のミソハギを入れた灑水(しゅすい)を「水の子」に降らせてあげる。

近縁種のエゾミソハギはミソハギよ

りも花が大きく美しく、全国の川縁や湿地に自生し大群落を作っている。日本のほかユーラシア、アフリカにも自生が見られ、北米やニュージーランドには帰化し勢力範囲を広げている。

1990年6月、17年ごとに一度だけ発生するセミを見に出かけ、長時間の飛行の後シカゴ空港に到着、少し時差ぼけだったが滑走路わきを埋めた桃色の小さな花を咲かせた群落の出現で目が覚めた。

植物の資料も持たず、短期間のセミの旅、後で調べようと種子を採取、帰国後育ててみるとまぎれもなくエゾミソハギだった。世界の各地に分布を広げているエゾミソハギだが、日本では湿地が埋め立てられ自生地が減少しているのは皮肉なものだ。

※「水の子」あゝ世で飢えに苦しみ渴いたのどに通るよう祈りを込めたもの
閼伽器(あかき)神仏に供える水を入れる器
灑水(しゅすい)煩惱や穢れを清める水

■こんな花ご存じですか■

7月2日、若葉の森3・1会の作業中に、緑地内でサガミランモドキと思われる植物10株以上が自生しているのを見つけました。

サガミランモドキは環境省のレッドデータで「絶滅危惧種Ⅰ類(Ⅰ)」とされています。(なお、東京都のレッドデータブックには、この種の記載はありません。)

7月9日、活動日だった若葉緑地の会の皆さんと再度観察したところ、先週よりも広範囲に、さらに20株ほどが自生しているのを確認しました。先週見つけたのよりも若い個体が多く、これから開花する個体もあります。



サガミランモドキ

さらに、少なくとも1株はマヤラン(摩耶蘭)であることがわかりました。マヤランはサガミランモドキと同じラン科シンラン属で近縁種ですが、サガミランモドキが全体に薄緑色であるのに対して、花に赤い模様があります。やはり菌類から栄養を得る腐生植物で、マヤランは環境省のレッドデータでは、絶滅危惧Ⅰ類、レッドデータブック東京2013(本土部)では絶滅危惧Ⅰ類とされています。

このマヤランを含めて、今日みつけた

た自生地点は、先週の発見地点よりも宅地開発地により近接しています。シラシ大木群の伐採によって、6月上旬に日照条件が大きく変わった(明るくなった)場所です。立ち並んでいた樹高20m以上のシラカシがなくなったことによって、この方向から差す西日がマヤランやサガミランモドキに当たる可能性があります。日陰の湿った環境に適応したこれらの貴重植物が、来年もこの地点で見られるか、疑問です。

この辺りでは、過去にマヤラン、サガミランモドキの自生が見つかった記録がありますが今年の発見場所とは50m以上離れた地点で数株の自生でした。

今年、このように多数の個体が広範囲に自生したことの要因は何か。

マヤランとサガミランモドキはシンランとほぼ同じエリアに生えており、

今年のシンランが例年を超える勢いだったことと関連があるのではないのでしょうか。シンランの発芽・生育にも関係がある地下の菌類や、マヤランなど腐生植物が栄養とする菌類が例年以上に繁殖する条件に恵まれたのではないかと、あくまで推測ですが、そんなことを考えています。

大村哲夫

ちょうふの崖線樹林を守る

入間・樹林の会

6月18日(日) 曇り 参加者8名

新しく1人仲間が増え落ち葉溜め杭打ちと雑木林広場通路と三角地の下草刈りを行った。初めて鎌を使ったWさんにはハードな作業のようだったが、疲れたが作業は面白かったとの感想にほっとした。昨年とは違いイネ科の植物が生えていて稲刈りみたいだったとの感想も。



三角地帯草刈前



草刈後 やりきったよ!



カモジグサ?



キマワリ

7月15日(土) 晴れ 参加者9名

新たな参加者に調査方法を伝え、全員で方形枠調査とシヤガと雑木林広場の植生調査を行った。シヤガの広場で45種、雑木林広場36種を観察確認した。坂道横の枠でアシナガバチに刺されたため調査は中止した。蜂に刺された時の注意を根本さんから聞いた。

プチ違いは、ヤブミョウガ(ツユクサ科)とミョウガ(シヨウガ科)(安部)



マンリョウ



ヤブミョウガとミョウガの違いは?

若葉の森3・1会

5月27日(土) 晴れ 参加者5名

隣地の宅地開発により返還する第1緑地の一部(借地)の落葉溜りや切株の下地の土の中からカブトムシの幼虫95匹を救出し、コンポスト柵へ引越し。ハラン10株も移植。



ウンモンズズメ



カブトムシ幼虫

6月4日(日) 晴れ 参加者9名

第1緑地は、カブトムシの仮住まいを湿気維持のため落葉や小枝で覆った。また、新居として竹製の落葉溜めを作った。中央通路の土留め杭補強。六別坂など落葉掻き。



7月2日(日) 晴れ 参加者7名

暑い日。第1緑地は、隣地開発の影響を確認、仮通路斜面を水平に。第2緑地通路ササ刈り。六別坂など落葉掻き。七夕用竹伐採。絶滅危惧種サガミランモドキ確認。

●6月17・18日環境

活動交流会に参加

●宅地開発隣地との

境界地の樹木多数伐

採、6本は残った。日照変化が植生に影響も。新環境での保全が大きな課題。



斜面に通路確保

(NOK)

カニ山の会

6月10日(土) 雨 参加者12名

作業をやる人と分かれ、5人は年に1度のフローラ調査。2年ほど前に見つけたヤマユリの葉は健在。あと数年生き延びて花を咲かせて欲しい…。

7月8日(土) 雨 参加者5名

雑木林ボランティア講座受講生の実習受け入れ日。

講座生はカニ山をひと回りして講師(カニ山の会リーダー)の説明を聞いた後、ドンダリの森広場で実習。大きく育ったススキやフェンス際の雑草の草刈り。私もカマの使い方はヘタだが、講座生の手さばきを見てみると私以上に心もとな。特に若い方はほとんど初めての経験ではないだろうか。それでもベテランスタッフにアドバイスを受けながらススキの束ね方も教わり、皆で野草園前の捨て場まで運ぶ。大変な暑さの中、全員頑張ってくれました。(鍛冶)



講座生と草刈り

凸凹森の会

6月25日(日) 雨天のため活動中止

7月16日(日) 晴れ 参加者7名

今月末に予定している夏のイベント「流しそうめん」に向け、会場となる草地の草刈りや、材料となる竹の選別を

若葉緑地の会

6月11日(日) 晴れ 参加者9名

新メンバーが参加。北側公道と緑地内の清掃。隣地の民家窓に接触していた低木の常緑樹を伐採。道具小屋まわりの草刈り。少雨のためカツユクサが咲かない。林内でアカボシゴマダラやオオカマキリ。

7月9日(日) 晴れ 参加者7名

朝から30度を超える暑さ。いつもの清掃後、通路の階段の横木を取り替え。春にタチツボスミレの見事な群落が見られた地点を重点的に草刈り。隣接する緑地で見つかった絶滅危惧種植物を観察。



通路階段の横木取り替え

(大村)

しました。その草地は頭上にケヤキの樹冠が広がっているため夏の炎天下でも涼しいのですが、前回作業ができなかったので日陰でもかなり草が伸びていました。



スポットライトのように日の当たっている所はじりじりと肌を焼くような暑さですが……。



調布水辺の楽校 開校式&ガサガサ

6月10日(土) 晴れ ニヶ領上河原堰 下流

市内20小学校から児童数合計86名、保護者等67名、総計153名の参加にスタッフ25名。実際にはもっと多くの応募がありましたが、安全上の観点から一部お断りさせていただいた皆様がありました。

水量が少々少なめでしたが水辺の安全講習やガサガサの実施方法などをレクチャーした後に、いざ川へ！

ガサガサを行うには少し広く、茂みも少なかつたせいか種類も少な目でしたが親子で力を合わせて色々な生物を捕獲しました。

また、捕獲した生き物についてのスタッフからの説明に児童だけでなく親御さんも聞き入っていました。

捕獲した生き物は、アユ、オイカワ、コイ、ヌマチチブ、スミウキゴリ、モクズガニ、コオニヤンマのヤゴ、ハダロンボのヤゴ、サナエトンボのヤゴ、ミナミヌマエビ、コイ科の稚魚。

水辺の行事ですので、けがや事故もなく終わったことが何よりですね。次回は8月26日(土)『アドベンド多摩川』を行いますので、是非ご参加ください。(サポーター池ノ内)

*****富士見町 三日月フラワーガーデン*****

天文台通りに面した三角地帯に通りがかると四季折々、色々な花が楽しめます。かなり面積がある場所ですが、公園というより中央に散策路がある花壇になっているからです。現在4つの市民グループが「花いっぱい」の補助金を受けながら自分たちのセンスで花を育てているとのこと。

ヒマワリやノウゼンカズラ、アジサイのような大きめの花や昔ながらのオニユリ・クサキヨウチクトウ(オイランソウ)・キクイモなども咲いています。

花壇の清掃が終わった後なので、道路脇にボランティア袋がありました。行政が管理する均一な植物ではないのでガーデニングにかけの思いが伝わります。

こんなすてきな花壇、市民との協働でもっと増やせるといいですね。(NK)

7月29日 野川水辺の観察会

講師：調布水辺の楽校 宮治隆博
主催：調布市国領地区協議会

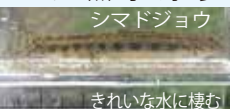
昨年度から2回目の開催でしたが、昨年参加した1年生のリピート率が高かったということが驚きでした。「楽しかったのでまた参加したい」との声が多かったとのことでした。

しかし、カラ梅雨以降雨がなく、国分寺市を源流とする野川は湧水が頼りですが、都市型河川の宿命として、アスファルト、コンクリートに覆われた市街地からの水の涵養は頼りなく、近年でもまれに見る渇水で、開催すら危ぶまれましたが、ギリギリな状況で開催出来ました。



実際に、この馬橋辺りの上流、下流とも伏流してしまつて水が途絶えています。確認できた魚種はあまり多くなかったのですが、ずぶぬれになった子(親も)もいました。逆になんか楽しそうでした。大きな事故もなく、無事終わることが出来て何よりでした。

昨年同様、磯邊さん(通称野川博士)にも参加いただき、野川の解説、渇水についてなどたくさん語っていただきました。(宮治)



環境市民活動スケジュール

入間・樹林の会

原則毎月第3日曜に樹林の保全活動を行っています。参加希望者は直接入間地域センターへ。

- 8/20(日) 9:30 ~ 12:30
 - 9/16(土) 9:30 ~ 12:30
- 植生調査・保全活動

カニ山の会

毎月第2土曜に自然広場で保全活動を行っています。参加希望者は野草園横に直接集合。

- 8/12(土) 10:00 ~ 12:00
- 9/9(土) 10:00 ~ 15:00

※原則、奇数月は3時までですが状況で時間変更があります。

若葉緑地の会

原則毎月第2日曜に若葉町3丁目第3緑地で保全活動を行っています。参加希望者は直接現地へ。

- 8/13(日) 9:30 ~ 12:00
- 9/10(日) 9:30 ~ 12:00

若葉の森3・1会

原則毎月第1日曜に若葉町3丁目第1・2緑地で保全活動を行っています。参加希望者は直接現地へ。

- 8月はお休み
- 9/3(日) 9:30 ~ 12:00
- 10/1(日) 9:30 ~ 12:00

凸凹森の会

原則毎月第4日曜に上石原布田屋線緑地で保全活動を行っています。

- 8/27(日) 9:30 ~ 11:30
 - 9/24(日) 9:30 ~ 12:00
- 栗拾い

先の5団体の保全活動問合せは緑と公園課 042-481-7083

市民発 ちょうふの自然だより

◆「ちょうふの自然だより」はカンパとボランティアで支えられています。2009.3.15に設立された市民団体「ちょうふ環境市民会議」が自主発行しています。調布市内の身近な自然情報や市民の保全活動の記録、環境イベント案内、コラムなどを掲載、無料で配布しています。

発行：ちょうふ環境市民会議 連絡先：info@chofu-kankyo-shimin.org ※携帯メールでのお問合せには当方の返信が届かない場合があります。

“自然だより”の置き場所を募集中です。

◆地域福祉センター、たづくり11Fみんなの広場、調布市環境部(市役所8F)、あくろす2・3F、郷土博物館、実篤記念館、多摩川自然情報館のほか、神代植物公園植物多様性センター、てらのサウルス(国領)、えねこや、みさと屋(布田)など。置き場所&応援カンパ募集中です！

◆会員募集！年会費1000円/サポーター会員500円
郵便振替 00150-9-765663 ちょうふ環境市民会議

◆この自然だよりは ちょうふ環境市民会議ホームページにも掲載、バックナンバーもご覧になれます。◆